

科目名	基礎看護学実習Ⅱ (患者の理解と看護援助) Fundamental Nursing Practice II		担当教員 (研究室番号)	鈴木 聡美 (103) 他		教員への連絡方法 (メールアドレス)	鈴木 : satomi.suzuki@mcn.ac.jp					
履修年次	2年次 後期	科目 区分	専門科目・実践基盤看護学		選択 区分	必修	単位数 (時間)	2 (60)	授業 形態	実習	科目等 履修生	否
											オープンクラス	否
科目 目的	健康課題を持つ人の健康の維持・回復もしくは苦痛の緩和のために、看護過程の展開を通して、個性性に合わせた、安全・安楽かつ自立に向けた日常生活援助を実施する能力を養う。											
ディプロマ・ ポリシー (DP)	主要なDP	G 身につけた知識を基盤に、収集した情報を科学的・論理的に分析し、人々の健康に関する課題を把握する能力を身につけている。(思考・判断)										
	関連する DP	F 人々の健康的な生活を支援するために、必要な情報を様々な方法により収集する技能を身につけている。(技能・表現) H 人々の健康に関する課題の解決に向けて、安心・安全・安楽・自立を基本とした看護を実践する技能を身につけている。(技能・表現)										
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>受け持ち患者と援助関係を築くことができる。</li> <li>受け持ち患者の日常生活援助に必要な情報を収集することができる。</li> <li>収集した情報を分析・統合し、受け持ち患者の全体像をとらえることができる。</li> <li>受け持ち患者の看護上の問題を明確にすることができる。</li> <li>受け持ち患者の個性性に留意した援助計画を立案することができる。</li> <li>受け持ち患者に必要な日常生活援助を安全・安楽・自立に留意して実施することができる。</li> <li>受け持ち患者の反応や変化から実施した援助計画を評価することができる。</li> <li>看護学生として適切な行動をとることができる。</li> </ol>											
成績評価方法 (基準)	実習評価表に基づき、実習内容・実習記録・出席状況などを総合的に評価する。											
再試験の有無と 基準等	「実習の出欠席および追実習に関する取扱要領」の第4条の記載される理由で1/4以上を超える欠席の場合に、追実習を認めることがある。再実習は行わない。											
教科書	看護学原論、基礎看護方法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳで使用したテキスト、参考書、配布資料、視覚教材 教養・基礎科目、専門支持科目で使用したテキスト											
参考書等	必要に応じて紹介する。											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と 学生への期待	看護師または教員と共に受け持ち患者さんの日常生活援助に関わりながら患者さんの理解を深め、看護過程を展開する。また、カンファレンスを実施し、グループでディスカッションすることで学びを共有する。 患者さんを受け持つことの責任を自覚して、自分ができる看護援助がしっかり提供できるように、知識、技術を高めることはもちろん、体調管理も徹底して実習に臨みましょう。この2週間で体験する様々な出来事を通して、自分自身と対峙して、成長されることを期待しています。											
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>履修条件：基礎看護学方法Ⅲ・Ⅳの単位を修得していること。</li> <li>臨地実習前の8月に学内でオリエンテーションを行う。</li> </ul>											
学 習 内 容												
<ol style="list-style-type: none"> <li>実習期間・実習場所 *履修者を2クールに分けた上で、グループごとに2施設に配置する。 &lt;実習期間&gt; 2週間 1クール：9月9日～9月18日、2クール：9月23日～10月2日 *それぞれのクールで1週目に3日間、2週目に5日間、臨地実習を行う。 &lt;実習場所&gt; 三重県立総合医療センター、松阪中央総合病院</li> <li>内容・方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>病院・病棟オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> <li>実習病院における看護の概要について説明を受ける。</li> <li>病棟の構造・物品場所、入院患者の特徴、看護体制、週間予定、日課などについて説明を受ける。</li> <li>電子カルテ・診療録の見方、閲覧方法、閲覧ルールについて説明を受ける。</li> </ul> </li> <li>受け持ち患者について <ul style="list-style-type: none"> <li>学生2名で患者1名を受け持つ。状況により学生1名で患者1名を受け持つこともある。</li> <li>看護師または教員と共に受け持ち患者の日常生活援助に関わりながら患者の理解を深め、看護過程を展開する。</li> </ul> </li> <li>毎日の行動 <ul style="list-style-type: none"> <li>1日の実習目標(行動目標)を立案し、その目標が達成するように時間軸で行動計画を具体的に記入する。</li> <li>実習目標(行動目標)と行動計画を発表し、教員または臨床指導者の助言があれば、必要時修正をする。</li> <li>患者にケアを行う時は、臨床指導者や教員から事前に援助計画内容と注意事項を確認してもらった上で実施する。</li> <li>ケアの終了後は、どのように実施し、患者の反応をどのように捉えたのか等を教員または臨床指導者に報告する。</li> <li>実施したケアや観察は臨床指導者または受け持ち患者の担当看護師に報告する。</li> <li>毎日、自己の行動や実施したケアを振り返り、課題を見出すことで、次の援助につなげる。</li> </ul> </li> <li>カンファレンス <ul style="list-style-type: none"> <li>原則として毎日学生が主体となって行う。テーマの決定や運営方法は、各グループメンバーで話し合う。</li> <li>実施時間は、実習状況によって各グループで決定する。</li> </ul> </li> <li>実習進度(目安) <ul style="list-style-type: none"> <li>【第1週】 <ul style="list-style-type: none"> <li>実習1-2日目 病棟オリエンテーション、受け持ち患者の決定、受け持ち患者の援助に関わることを通して、必要な情報を収集する。</li> <li>実習3日目 受け持ち患者への援助を通して、情報の整理・分析・解釈を行い、看護の方向性を考える。</li> </ul> </li> <li>【第2週】 <ul style="list-style-type: none"> <li>実習4日目 中間カンファレンスで患者の概要と実施したい看護(看護の方向性)を発表する。</li> <li>実習5-6日目 看護の方向性に沿って、受け持ち患者への援助を行う。 アセスメントをすすめて全体像を大づかみに描く。</li> <li>実習7-8日目 受け持ち患者に必要な看護計画を立案する。 主体的に看護援助を実施し、その結果を評価、修正する。 最終カンファレンスで自分が行った看護を振り返り発表する。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ol> </li> </ol>												
学 習 課 題												
<ol style="list-style-type: none"> <li>事前課題：1)実習病棟に多い疾患・治療・看護を調べておく。 2)実施することが多い看護援助について、基礎知識と技術の再確認を行っておく。</li> <li>事後課題：1)受け持ち患者に実践した援助、及び実習生としての自身を振り返り、指定されたテーマに沿ってレポートにまとめる。 2)看護過程を展開して実施した看護の記録を完成させる。</li> </ol> <p>*詳細は「基礎看護学実習Ⅱ実習要項」を参照のこと</p>												
実務経験を活かした教育の取組												
・看護職として実務経験がある教員が実習グループを担当し、指導を行う。また、実習施設では実務指導者からも指導を受ける。												